

活動テーマ

私たちの未来に向けて、

『知ろう、つくろう、広げよう』

実践事例について

愛北小の子どもたちは、身の周りの豊かな自然や環境を守ろうとする地域の人たちや施設とつながって体験活動を行ったり、地域の福祉施設と協力して学習したりしている。自分の生活をふり返り家庭でも実践できる活動へと取組を広げている。

1 学校環境

本校は、鈴鹿の山々を背にし、田畑や果樹園の広がる農村地帯に位置する。近くに湖東三山の一つ「百済寺」があり、歴史と豊かな自然に囲まれた学校である。

地域の産業は兼業農家が多く、米・野菜の他にも地域の地形や気候を生かした、ぶどうや梨等の果樹栽培が盛んに行われており、本校児童もその栽培の一端を、実際に畑に行き、学習させてもらっている。

また、愛東地区が発祥となった「菜の花エコプロジェクト」は全国的にも有名である。環境に配慮しながら安全で安心な農作物を作る「環境こだわり農業」や「ゆりかご水田」などの推進に力が注がれている。現在では、あいとうエコプラザ「菜の花館」を拠点として、資源循環型の地域づくりが活発に進められている。

2 実践事例

(1) 恵美須溜での自然散策、ごみ回収活動

全校児童が縦割り班で校区にある恵美須溜まで歩く「はとのこ遠足」を実施した。これは、学校から約2km離れた恵美須溜の畔で、異年齢交流や環境に関する学習、清掃活動をするもので、具体的には

- ① 恵美須溜についてお話を聞く活動
- ② ネイチャービンゴ
- ③ 散乱ごみ回収活動

を行った。

①については、「恵美須溜の環境保全」や「恵美須溜を訪れる水鳥」についてお話を聞いた。

②は、縦割り班ごとに恵美須溜の周りを歩きながら、示された草花等を見つけるゲームである。子ども達は、ヨシ地や樹木の広がる親水域の自

然を楽しんで活動していた。

③の活動は、ため池の喫水域を周回しながら、釣り糸や釣り針、空き缶やビニル袋などを回収するもので、「子どもたちが掃除をするようになって、水鳥が釣り糸や釣り針で命を落とすことが少なくなった。」との、地域の方の感謝の声にも支えられて、意欲的に取り組んでいた。

(2) 菜の花エコプロジェクトに学ぶ(4年)

あいとうエコプラザ「菜の花館」の出前授業を活用し、4年生では「資源のリサイクル」について、体験的な学習を行った。

愛東では菜の花をたくさん栽培し、菜種油を搾油、使用後の廃食油を回収し、そこからBDF(バイオディーゼル燃料)を精製している。BDF精製は理科室でも実験できるため、子どもたちは薬品の混合やキャンドルづくりなどを行った。自分たちが作ったBDFで早速カートを動かし、確かに精製できたことを実感できた。また、菜の花を栽培して二酸化炭素を吸収すること、廃物となった油をリサイクルすることで、地球温暖化防止に役立っていることを理解できた。



(3) 大気の調査とケナフ栽培（6年）

6年生は、地球規模の環境問題について学習し、地球温暖化などの原因となっている大気の変化について調査をした。校区内の空気の汚れを調べるために、松の葉の気孔を観察した。また、気体検知管を使い、比較しながら調査をした。意外と汚れのある愛東の大気を少しでも浄化させるためケナフを栽培し、12月に親子活動で紙漉をした。漉いた紙が卒業証書となる。



(4) エコ委員会の取組

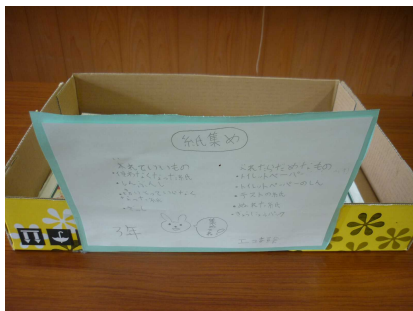
エコ委員会では、全校にエコ活動と呼びかけ、年間を通して、手洗い後の節水チェックや、中休み・昼休み中の節電と呼びかけるなど、自主的な点検活動を行い、全校にエコ意識を高めてもらえるよう、はたらきかけをした。

ア エコキャップ回収活動

全校のみんなに協力してもらえよう、ペットボトルキャップ入れの箱を置いた。集めたペットボトルキャップは、地域の福祉施設「愛東和楽」に寄付し、福祉活動に役立ててもらっている。

イ 古紙回収、テープなどの巻芯集め

ごみを減らし、リサイクル活動に取り組むために、いらなくなった紙を集めた。また、セロハンテープなどの使い切った後の巻芯を集め、製造企業に送付し、マングローブの植樹や発展途上国の援助に協力をする取組を行った。



ウ 休み時間の節電チェック

誰もいない教室の電灯がついたままになっていないかをエコ委員が点検し、校内放送を通して、全校に節電をするように呼びかけた。

エ エコ集会

いらなくなった紙や広告、牛乳パックなどを用いて、工作をした。全校に呼びかけ、みんなに省資源化に対して関心を持ってもらおうと取り組んだ。また、広告を折って、給食時に出るごみを入れるための紙箱を作り、全学級に配布した。

各家庭では個々でエコ活動に努めておられるが、学校での委員会活動だけでなく、PTA活動としてもエコな暮らしの意識化を図っていかうと活動を進めている。

3 成果と課題

教師が子どもたちの自発的な活動を支援し見守るようにすることで、今までの活動を知る6年生の子どもたちが4月から主体的に活動自体を進めていくことができるようになってきた。このような姿が見られるようになってきたことは、学習の中や家庭生活の中での会話などを通して、子どもたち自身が環境に目を向けて省エネ省資源を意識したことや、自分たちの手で実践していかうという思いをもつことができるようになってきたことの表れであると言えよう。少しずつ学校生活や家庭生活の中で子どもたちが発信していくことができるように、学びの深化をめざし、よりよい体験活動を探っている。

「エコな暮らし」は、ESDにつながり、これからの未来に生きる子どもたちには必要不可欠な学びである。今年度の活動をふり返り、子どもたちとともに課題を明らかにし、次年度に生かしていきたい。そして、これからの暮らしの中で、さらにPDCAサイクルを意識したより主体的な学習に努めていきたい。



学校名	東近江市立愛東北小学校
住所	東近江市百済寺本町1399番地
電話番号	0749-46-0588
E-mail	aikitasho@higashiomi.ed.jp